溝上慎一の教育論（動画チャンネル） No295
（新著の紹介）

子どもの「会話」を「対話」へ－TAKT授業のデザイン－
田島充士先生（東京外国語大学 准教授）

溝上　慎一　　Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

http://smizok.net/
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

（ご紹介）

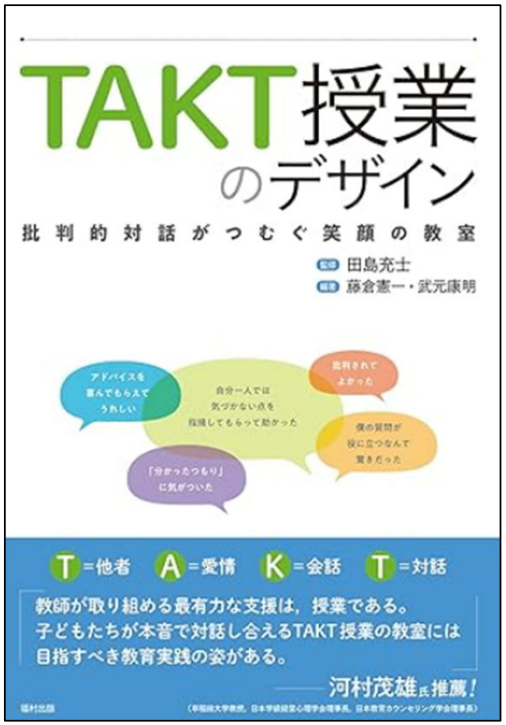
田島充士
たじま　あつし

東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授

筑波大学大学院人間総合科学研究科心理学専攻修了。博士（心理学）。高知工科大学講師を経て2012年より現職。公認心理師。学校心理士スーパーバイザー。

単著『「分かったつもり」のしくみを探る』（ナカニシヤ，２０１０），単編著『ダイアローグのことばとモノローグのことば』（福村，２０１９），監著『TAKT授業のデザイン』（福村，２０２４）など

田島充士（監修）藤倉憲一・武元康明（編）（2024）. TAKT授業のデザイン
　－批判的対話がつむぐ笑顔の教室－　福村出版



第1部　理論編
　1章　TAKT授業の提案――「対話的な学び」が実現する教育
　　1　言語認識の自動化が構築する文化集団
　　2　言語認識の異化をともなう他者に開かれたコミュニケーション
　　3　教室において展開され得る「対話」と「会話」
　　8　対話と会話の絡み合いとしての子どもたちの話し合い
　　9　対話的な学びを促進する子どもたちの信頼感
　　10　異質な文化集団に開かれたコミュニケーション力を育てる「TAKT」
　2章　TAKT授業の実践デザイン
　3章　実社会が求める人材とTAKT授業
　4章　TAKT授業の実践ポイント

第2部　実践編

それではご覧ください

書籍紹介
『TAKT授業のデザイン：批判的対話がつむぐ笑顔の教室』

田島充士（監） 藤倉憲一・武元康明（編）

（福村出版）

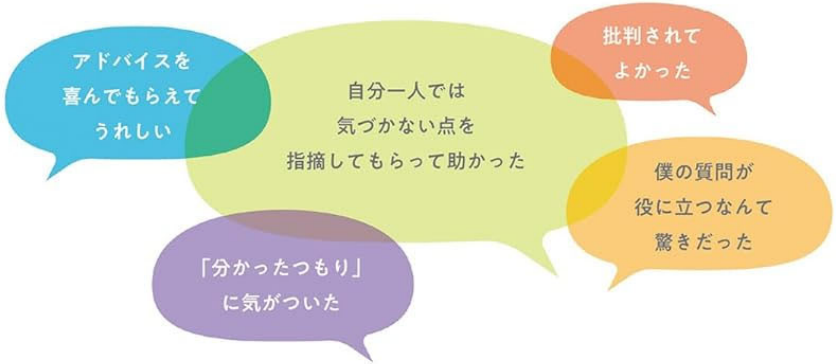
田島充士

（東京外国語大学）

TAKT授業のデザイン

批判的対話がつむぐ笑顔の教室

監修 田島充士
編著 藤倉憲一・武元康明



T＝他者　A＝愛情　K＝会話　T＝対話

教師が取り組める最有力な支援は，授業である。
子どもたちが本音で対話し合えるTAKT授業の教室には
目指すべき教育実践の姿がある。

——河村茂雄氏推薦！
（早稲田大学教授，日本学級経営心理学会理事長，日本教育カウンセリング学会理事長）

福村出版

はじめに

- 本書の企画は、「実社会で真に必要とされる対話力の養成機会を学校教育は提供できるのか」という問いから始まった。

- この問の元に、大阪市内の小学校教諭らで構成される『新授業デザイン研究会』と共同で開発した「TAKT授業」の研究成果をまとめたものである。

はじめに

- 現代の多文化共生社会を生きる子どもたちにとって、多様な意見を持つ者と批判的な知識構成を行える能力は必要。また同時に、自分の意見に対して批判を行う者との間に人間的な信頼感を構築できる能力も大切。

- このTAKT授業では、本書の副題にも掲げた「批判的対話がつむぐ笑顔の教室」をコンセプトに、この二つの能力を子どもたちに育成することを目指した。

- 監修として本書の編集に関わった立場から、内容について簡単に解説する。

「対話」と「会話」

- 学習指導要領において「対話的学び」が掲げられて以来、学習者同士の話し合いが、重視されるようになった。

- しかし単に話し合いといっても、相手が自分たちと知識の学習文脈を共有する「仲間」か、それとも知識の学習文脈が異なる「他者」かでその性質が大きく異なる。

- 他者とは教室での「①共有知識」を持たない人物ですから、仲間と比較して、ていねいな言語化による説明が必要。

- さらにこの他者は、説明内容について「納得がいかない」などと「②否定的な評価（批判）」を下す可能性のある相手。

「対話」と「会話」

- そのため、この他者との交流は知識を共有し肯定的な評価を下す仲間を相手にするより、困難な課題となる。

- 私はロシア（旧ソ連）の哲学者ミハイル・バフチンの対話理論を研究してきた視点から、前者を「対話」、後者を「会話」と呼んだ。劇作家・演出家の平田オリザ氏の分類も参考にしている。

- そして2014年2月に大阪教育大学附属天王寺小学校の講演会で、両者を区別して話し合い学習を進めることの重要性を訴えた。

仲間との会話（共有知識＋肯定的評価）

A:化石、おもしろかったよね！

B:うん。土の中に貝の化石とか

A:そう、このあたり、昔、海の底だった

B:それでたくさんの貝の死骸が底に沈んで石になった。

A:まるで人が彫刻刀で作ったようだね。

他者との対話

A:「化石」ってどういうものなの？

B:化石は，大昔に生きた生き物が，土の中に埋まって石になったものだよ（未共有の知識の説明）。

A:本当に動物が石になるの？誰かが彫刻刀で作ったのでは？

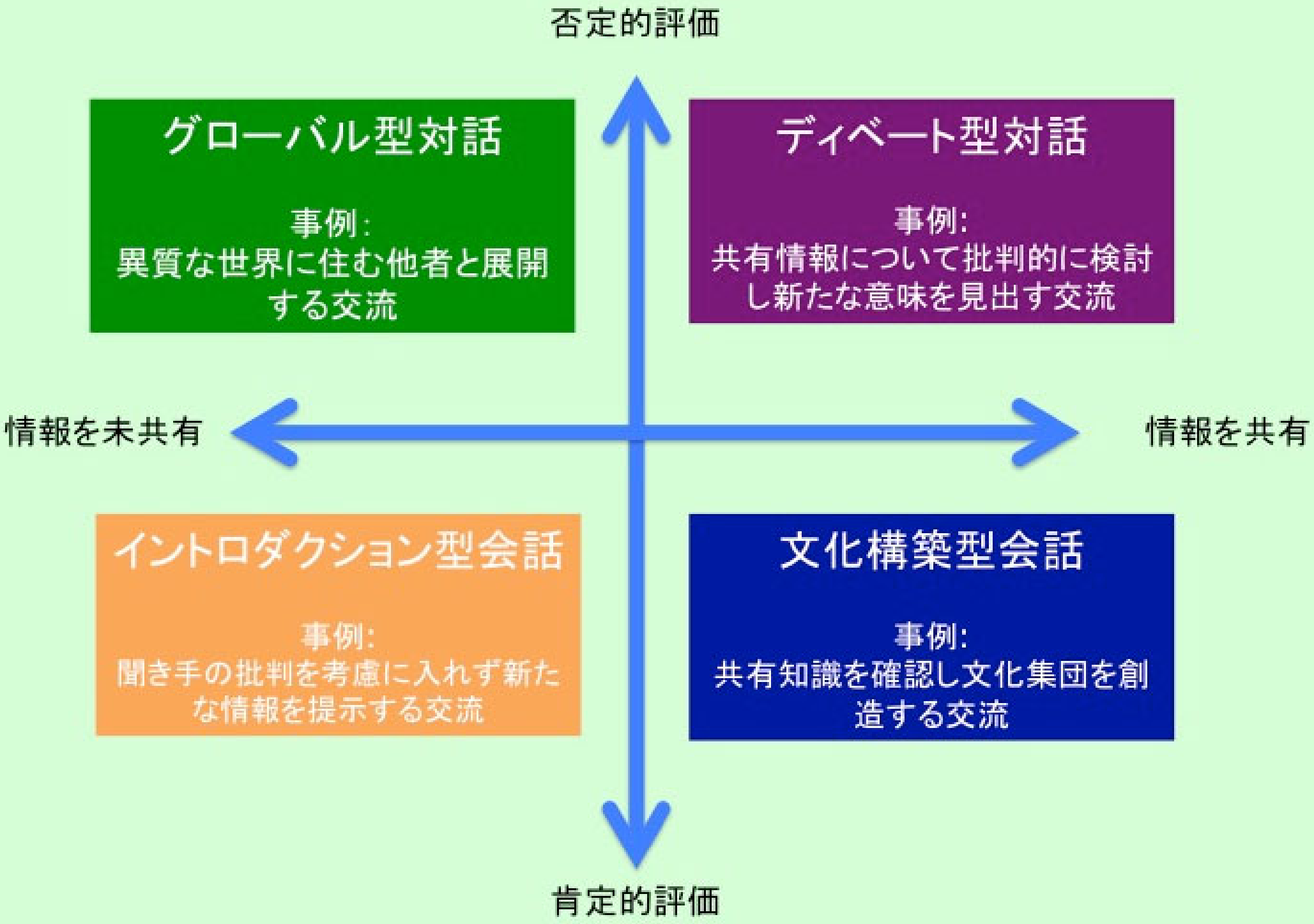
B:確かに化石は、誰かが作ったニセモノのようだけど（否定的評価への応答），本当に生き物だったの。

A:ちょっと納得がいかない。どうやってそれがわかる？

B:うーん、それは、実際に化石を割ってみると分かるかもしれない（否定的評価への応答）。周囲の石の部分と，生物だった化石の部分は完全に分かれているんだ。

A:もし誰かが作ったニセモノであれば，化石を割っても，周囲の石と分離することはできない、ということ？

B:そうだね、自然の中で動物が少しずつ石になった証拠だね（否定的評価への応答）。


否定的評価
グローバル型対話
事例:
異質な世界に住む他者と展開する交流
ディベート型対話
事例:
共有情報について批判的に検討し新たな意味を見出す交流
情報を未共有
情報を共有
イントロダクション型会話
事例:
聞き手の批判を考慮に入れず新たな情報を提示する交流
文化構築型会話
事例:
共有知識を確認し文化集団を創造する交流
肯定的評価

研究の開始

- この私の話に着目したのが、大阪市内の小学校教諭らで構成される『新授業デザイン研究会』代表の藤倉憲一氏だった。

- 藤倉氏は小学校の授業には対話がほとんど見られず、また対話と会話の区別さえ意識されていないことを問題視した。

- そして教室の中で、他者の視点を持つことで対話を行えるよう支援することが、子どもたちが自律的に学習を進める上で重要と私に訴えた。

研究の開始

- ヘッドハンターとして著名な武元康明氏（現sagasu株式会社代表取締役）とも研究議論を行った。

- 知識の種類・質や社会的な文化背景が異なる他者との対話を行えることが、グローバル化が進む実社会で活躍するリーダーに必須の能力であることを確認した。一方、このような能力が実社会の中で不足しているという課題も共有した。

- この問題は、2022年に経済産業省が発表した白書『未来人材ビジョン』においても指摘された。

TAKT授業のはじまり

- 私と藤倉氏・武元氏、そして新授業デザイン研究会のメンバーと共同で開発を進めた教育デザインが、本書で紹介する「TAKT授業」である。

- TAKTとは、「他者（T1）」「愛情（A）」「会話（K）」「対話（T2）」の要素を組み合わせた造語。TAKT授業は、子どもたちが自律的に「対話（T2）」を展開することを支援する実践である。

- 実践的には、藤倉憲一氏の「相互参観授業」および、筑波大学附属小学校（当時）の森田和良先生と田島が共同研究を行った「説明活動」の成果を下敷きに、プログラム開発を行った。

TAKT授業の学習目的と宛先

- TAKT授業で私たちが1番大切にしたのは、*「何のために（目的）」「誰のために（宛先）」*その単元の学びを行うのかということを子供たちと最初にることである。

- たとえば社会人となった私たち大人であれば、何かを学ぶ時、*「何のために」「誰のために」*勉強するのかが曖昧なままでいることは少ない。

- 勉強するために勉強するのではなく、困っている他者を助けるアドバイスをするために勉強するなど、子どもたちの学びに必然性をもたらす、リアリティをともなう目的意識の設定を重視した。

他者視点を意識した活動

- 例えば「地層の仕組みについて学びましょう」では抽象的に過ぎる。
- 一方、「地層の知識を通して地域の災害を分析し、地域の人たちの安全に貢献したい」であれば、学習の「*何のために*」「*誰のために*」が明確になる。
- 「情報ギャップ」と「否定的評価」を示す他者の視点を意識し、相手に伝わる情報を構成する活動になります。

「どの他者に伝えるのか」を子どもたちが自己決定できる（本書2部4章）

- 学習の目当てとなる「どの他者に伝えるのか」を，子どもたちに決めてもらう事もできる。

- 真田順平教諭（東田辺小学校）が実施した「空気物語」（小4）では，児童らが，2年生・3年生・6年生のどの学年の児童に向けて自分たちの学習を発表するのかを対話で決定した。

- 子どもたち自身が各学年の特性を見極め，それぞれの他者ごとのメリットをまとめ，最後は「選挙」で決めた。

投票箱

TAKT授業の実際（本書2部2章）

- 稲井雅大氏（大阪成蹊大学）が大阪市立大江小学の1年生学級で実施した生活科『学校しょうかい物語』を紹介する。
- 「他者」を、来年度入学してくる5歳児に設定し、学校紹介の絵本を作成した。
- 5歳児という他者の視点を想定して批判的対話を行い、自分のプレゼンテーションの内容と思考世界を見直すことを目指した。

1年生同士の批判的対話

（田島・河村・稲井・町・伊佐・武藤・苅間澤・楠見・鹿毛,（2023）より改変）

B:「わくわくランド」っていう言葉は、幼稚園の子は知らないんじゃない？

D:そういえばそうだね。

E:なんて説明すればいいかな、、、

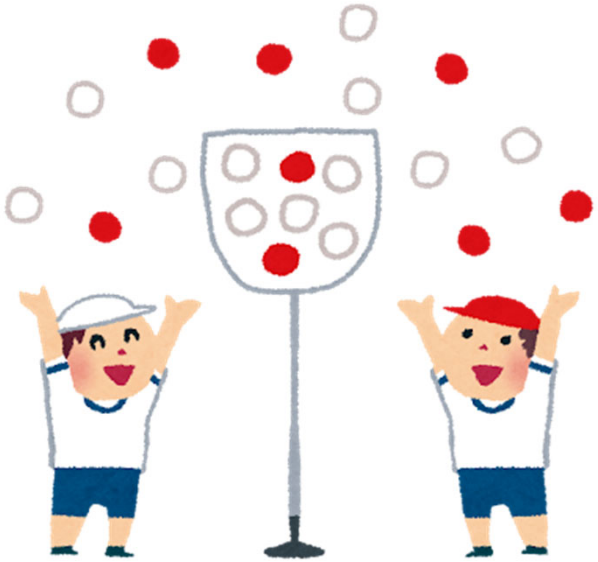
B:「教室で玉入れをして遊ぶよ」っていうのはどう？

D:でもそれ以外にもたくさんの教室や遊びもあるよ

C: それなら、「いろいろなへやにいってゲームをするよ」、ってのはどうかな。

D:いいね、それにしよう。

『わくわくランド』



他者を想定した資料の吟味

（田島・河村・稲井・町・伊佐・武藤・苅間澤・楠見・鹿毛,（2023）より改変）

G:周りを切ってFさんしか写ってないから、何をしているところかよくわからないよ。

F:私が目立つように周りを切ったけど、遊具を残した方がよく分かるね。

H：すべりだいや鉄棒もあるよって書いた方が楽しそうだね。

I：あと、このままでは、このページが何を紹介しているのか分かりにくいよ。

F:じゃあ「休み時間」っていうタイトルを入れるようにするよ。

批判への感謝

- ふつう、批判は大人でもあまり聞きたくないもの。
- しかしTAKT授業では、子どもたちは批判を受けることについて「批判されてよかった」「自分一人では気づかない点を指摘してもらって助かった」と受け止めた。
- 学習成果を「他者のために役立たせたい」と考える子どもたちは、その批判を自分たちの活動への支援と捉え、相手に感謝するようになった。

「人のためになりたい」という根源的動機

- 私たちは、子どもたちが指示されたことをするだけではなく、「人のためになりたい」という根源的な動機に動かされることに改めて気付かされた。

- そして授業内で交わす対話がその動機を満たすものとして認識される場合、厳しい否定的評価があるからこそ、本番で本物の他者に役立つものになるとしてありがたく受け止められるという事実も発見した。

- 本書の副題を「批判的対話がつむぐ笑顔の教室」としたのは、私たちが発見した、このメカニズムの重要性を強調する意図があった。

TAKT授業と学級運営

- この発見は、学級崩壊の予防・回復研究で著名な河村茂雄先生（早稲田大学）にも関心を持っていただいた。
- 私は2022年度に日本教育心理学会・研究委員として河村先生と共同で対話教育に関するシンポジウムを企画し、TAKT授業に関する研究成果を発表した。
- 河村先生から「子どもたちが教室外の他者の視点を持つことは多様性を認め合う学級運営に役立つ」　「批判を交わし合うことで子どもたちの信頼が増すという事実は重い」とご指摘いただいた。
- いじめなどの問題を防止し、子どもたちの人間関係の構築を支援し得る授業デザインとして、本書の推薦文を書いていただいた。

まとめ

- 多様な考え方を持つ他者との協働を前提とする「多文化共生」の実現は、現代においてその達成が急がれる喫緊の課題。

- その中で、異質な視点を持つ他者との対話に耐えるコミュニケーション力と情報整理力を獲得すると同時に、これら他者との情動的信頼感の醸成をも促進し得るTAKT授業は、多文化共生社会に生きる子どもたちを支援する有力な方法として、高い社会的意義を持つものと考えている。

- 教育に関心を持つ多くの方々に、本書を手に取って私たちの実践を読んでいただけることを願っている。

TAKT授業・関連文献

- 田島充士・河村茂雄・稲井雅大・町岳・伊佐貢一・武藤成也・苅間澤勇人・楠見孝・鹿毛雅治　2023　異質な視点を持つ他者との対話を実現する授業, 教育心理学年報, 2023, 62,306-319.（オンライン入手可）

- 田島充士　2024　教育講演会『世界とつながる「対話」を実現する学校：TAKT授業の提案』　令和5年度『研鑽』天遊大阪市小学校連合会研修資料　41, 14-19.（オンライン入手可）

- 田島充士（監）藤倉憲一・武元康明（編）　2024　TAKT授業のデザイン：批判的対話がつむぐ笑顔の教室　福村出版

謝辞

- 本発表に関する研究は，独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（基盤研究（C））『他者との感情的葛藤を解消し対話を促進する教育：カウンセラー型リーダーの養成（課題番号：23K02886　令和5年採択）』の助成を受けました。

- イラストを、『いらすとや』からお借りしました。